



一中だより

学校教育目標 自主・練磨・敬愛

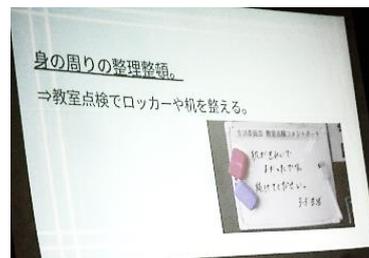
目指す学校像「笑顔と活力あふれる学校」～一人一人の「よさ」を見つけ、伸ばす～

「デジタルとアナログ」

校長 岡島 一恵



去る6月27日(金)に、実に6年ぶりに「生徒総会」が体育館において対面で実施されました。生徒会は、生徒が主体となって活動する自治組織として、学校生活をよりよくするための課題を、生徒たちで見出し、その課題解決のために合意形成を図ったり、意思決定したりする組織です。大人の社会においても選ばれた議員等による国会や地方議会、他にも様々な組織がありますが、私は、生徒会は、そういった大人社会の謂わば縮図であり、社会へ出ていくための学習でもあ



ると考えています。先日実施された生徒総会では、各学級で事前に議案について読み合わせを行い、当日は、生徒たちが疑問に思ったことを直接質問したり、新たな提案などについてやり取りがありました。自分たちで生徒会を運営するという自覚と自分たちで責任をもって議論、承認する場として、多分全体が一堂に会したからその緊張感が感じられたととてもいい生徒総会でした。



コロナ禍により、様々なことがオンライン化され、学校教育においても、GIGA スクール構想が加速的に進み、児童生徒一人一台端末や高速大容量通信ネットワークの整備等、その環境が整えられました。GIGA スクール構想は、令和元年に、Society5.0時代に生きる子供たちが、鉛筆やノート等の文房具と同じようにPCを学習の道具として活用し、一人一人が個別最適化され、創造性を育むための教育を推進するために、国の施策としてスタートしました。本校においても、教員が電子黒板で生徒に資料を提示したり、ビデオ通話アプリで一か所からメッセージを配信したり、クロムブックで生徒が自分の考えをまとめたり、作品を記録したり等、学習や学校生活で随分便利に活用されています。我々職員も、研修会や会議など、出張することなく参加できる機会が増え、これにより、授業の自習回数が削減されたことも大きなプラスだと感じています。ただ、オンラインで研修等に参加していて、時々感じるのは、対面でないことによる緊張感の薄れとコミュニケーションの取りづらさです。勿論、先に述べたようにオンラインの良さは十分に理解していますが、リアルだからこそ、視覚や聴覚による微妙なニュアンスが得られることにより、話し合いが深まったり、一体感が生まれたりすると感じるのには私だけではないと思います。コロナ禍により加速的に進んだ教育のオンライン化。本来のGIGA スクール構想の目的である個別最適な学びと協働的な学びの充実やICT 活用が目的ではなく、あくまでも手段であることをしっかりと押さえた意味のある活用について、次代を担う生徒の健やかな成長のために、我々教員は学んでいく必要があると改めて感じています。因みにこの度の生徒総



会において、議案書は印刷せずにデータをダウンロードし、クロムブックで見られるようにしたことで紙の削減をしたり、委員会の説明をスライドで編集して提示したりと上手なICT 活用ができたように思います。情報活用能力が言語能力や問題発見・解決能力と同様に学力の基盤となる資質・能力と言われている現在、どうデジタルを教育活動に効果的に上手に取り入れていくか、アナログの良さや必要性も考え、その目的に応じてバランスよく取り入れながら、教育活動の充実を図っていきたくております。

学校総合体育大会



去る6月11日(水)から、川越市学校総合体育大会が行われました。3年生最後の運動部活動の大会となりましたが、どの部も顧問の先生の指導の下、一生懸命頑張っていました。女子バスケットボール部とソフトボール部は、その後の29日(土)に実施された地区大会へ出場を果たしました。吹奏楽部は、6月16日(月)に実施された西部地区吹奏楽研究発表会に出場し、素晴らしい演奏を披露してくれました。



吹奏楽研究発表会



 6月の学校朝会で「努力」について話をしました。今回も参加した生徒全員にクロムブックで感想を寄せてもらいましたので、その一部を紹介합니다。

今日の学校朝会では学校教育目標の一つ「練習」について話したいと思います。繰り返しの努力は、「不可能」を「可能」に変えることがあります。人は、自ずと初めから自分の限界を決め、自分のもつ無限の可能性を潰してしまっているかもしれません。

有名な「ノミの法則」。自分の身体の100倍以上の驚異的なジャンプ力で知られるノミ。でも、そのノミを狭い蓋のついたコップに入れることで、ノミは、コップから出られないほど、その力が出せなくなってしまうといひます。コップの蓋がノミの限界を低く設定してしまう訳です。これは、人が自分の力の限界を「どうせ、無理だから」と自分自身で決めてしまい努力を諦めてしまうことと似ています。人にとって、ノミの入れられた瓶の蓋が、「どうせ」という弱い気持ちなのかもしれません。

また、不可能とされてきたことを、一人の人が達成することで、他の人の認識を変え、次々に記録が更新されていくことを、「バニスター効果」といひます。1950年代、医学生でもあり陸上選手でもあったイギリスのロジャー・バニスターは、当時絶対に不可能だとされていた1マイル(約1.6km)4分の壁に、懸命に努力し、果敢に立ち向かひます。彼は、何年もの年月を超え、人類史上初めてその目標達成することに成功します。すると、その後、以前は不可能とされていたこの記録を、短期間の内に、次々と新たな選手により塗り替えられていったのです。「やればできる」といひ信念が、限界を押し広げ、努力し続けることで「不可能」と思われてきたことを「可能」に変えることができるのです。

必ずしも全ての努力が実を結ばないかもしれません。でも、せっかくもっている自身の力を自身によって限界を決めて発揮できなくなってしまうほど、残念なことはありません。自分の可能性を引き出すのは、他でもない自分自身。そして、諦めずに努力したことは決して無駄にはならないはずでひす。川越第一中学校の生徒の皆さん、目標をもって、自分自身の可能性を信じ、努力できる人になってください。

今日の話を聞いてます思ひ浮かんだのは、今年の体育祭でした。大縄で、練習ではあまり上手くないなかつたけれど、成功を信じて努力し、14回で一位を取ることができました。正直、不安な部分もあつたけれど、とても嬉しかったし、諦めずにやれば絶対できるのだなと思ひました。これからも、諦めずに挑戦し、努力していければなと思ひました。
 1年O組 OO OO

のみの話は有名で知っていたが、一人ができればみんなできるようになるというのひは、初めて聞いた。自分も空手をやっているのひで、空手で一人目になってみたい。「どうせ無理だ」を、これから挑戦する時には、やめていきたい。
 1年O組 OO OO

「どうせできないからやらない」と「やればできるよ」この口癖はよく耳にします。しかし、一つはマイナスの口癖で、もう一方はプラスの口癖です。マイナスの言葉を言ひ続けると自分の可能性を狭めてしまひます。自分の可能性を広げ、自分を成長させるのは自分です。どうせ無理と行動する前に諦めるのではなく、失敗してもいいから挑戦し続け自分の将来の可能性を広げていきたいです。
 3年O組 OO OO

マラソンの話について、不可能と言われていたものを、誰かが達成しただけで、どんどん達成者が出てくるのは、あのタイムは無理だろう、という固定観念にとらわれていたからなのかなと感じました。でも、固定観念を不可能ではないとわかつた途端にどんどん達成できるのは、自分の力では不可能と決めつけていたからで、実際はできることを信じていなかったからだと思ひました。私も自分の可能性を信じて様々なことに挑戦してみたいと思ひました。
 2年O組 OO OO